

## 1) - 9 南海トラフの巨大津波による大規模火災の危険予測と防火対策【安全・安心】

研究開発期間（平成 28～30 年度）

[担当者] 岩見達也（研究分担者）

東日本大震災では、373 件の火災が発生したが、そのうち 43%は、巨大津波に起因する「津波火災」であった。さらに、今後起こりえる南海トラフの巨大地震においては、高知県や静岡県において、最大津波高が 30m を超えることが予測されている。本研究では、南海トラフ地震による巨大津波の対象地域について、各地域の瓦礫発生量や石油流出量を算出するとともに瓦礫火災シミュレーションプログラムを用いた津波火災の予測を行うことにより、津波火災の危険性の把握を行う。また危険性回避のための有効で実現可能な防火対策を具体化する。

平成 30 年度は、瓦礫火災シミュレーションプログラムを改良し、別途実施する津波瓦礫の堆積シミュレーションと連携して瓦礫データの読み込み及び瓦礫火災シミュレーションを実施できるよう、機能拡張を行った。